

レポートの構成

レポート・論文では、特に指示がない場合、序論・本論・結論の「三部構成」をとることが一般的です。あくまでおおよその目安ですが、序論・本論・結論がそれぞれ、10～20%、70～80%、10%程度になるように構成するとバランスがよいでしょう。序論・本論・結論の役割は分野やレポートの性質によって異なりますが、一般的にはそれぞれ以下のような役割があります。

●●● 序論

このレポートで検討しようとしている問いは何なのか、どうしてそれについて書くのか、テーマ設定の背景を読者に示します。また、その問いに対する答えを、これ以降の本論でどのような手順で明らかにしていくのかを示します。

●●● 本論

序論で提示した問いへの答えが、なぜ結論のような内容になるのか、その論拠を示します。通常、三部構成の中で最も長い部分になりますので、いくつかの章・節で構成するなど、文章の組み立てを工夫し、わかりやすく議論を展開します。

●●● 結論

序論で提示した問いに対するあなたの答えを示します。結論で示す答えは、序論で示した問いと対応していること、また、本論での論拠を受けて論理的に導かれた答えであることが求められます。



グラフや図を用いるとわかりやすいよね。



だらだらと文章を書くのではなくてバランスよい構成が大切だね。



理系のレポート

理系のレポートと言えば、実験レポートは必須でしょう。基本的な構成は、上述の通りで構いませんが、実験レポートでは、三部構成をさらに分解し、五部構成程度にするのが一般的です。

序論→(1)実験の目的と概要

本論→(2)実験に用いる装置、原理、(3)実験方法と結果

結論→(4)結論、(5)考察

特に(2)、(3)では、実験内容とそこから得られた結果・結論を他の人が使えるように伝えるため、図や数式の展開、グラフなどが必須です。